

【部会・分科会活動報告】 2017年9,10月度

食 品 安 全 研 究 会	食品微生物研究部会	<p>1. 分科会活動</p> <p>(1) 芽胞菌研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高温性嫌気性細菌検査法の各社の展開状況確認、ソフトドリンクスへの掲載検討、Alicyclobacillus 属の挙動の公表方法等に関する打ち合わせの実施 (9/12) <p>(2) MALDI-TOF MS 研究分科会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ NITE との第3回会議を実施 (10/24) : カビ分析法のスタンダードプロトコルの進捗について <p>(3) チルド勉強会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海外チルド食品ガイドライン等の勉強会を実施 (10/11) <p>(4) 飲料等の開栓品に対する微生物クレーム低減活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマ完了 <p>(5) NGS プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ILSI Europe 主催の会議に ILSI Japan 代表として東京海洋大学教授 木村先生にご出席いただいた (10/5) <p>2. 2017年度第3回部会全体会議と勉強会を実施 (9/28)</p> <p>3. 食品微生物研究部会主催 2017年度公開シンポジウムを予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 題名: HACCP を支える微生物検査とその最新技術 ・ 演者: ①東海大学教授 荒木先生、②農研機構 川崎先生、③食品産業センター 柳平先生、④NITE 川崎先生、⑤東京海洋大学教授 木村先生 ・ 日時: 12月15日(金) 10:30~17:10 ・ 場所: 東京大学 弥生講堂一条ホール ・ 対象: 一般(先着250名、HPより参加申込み) ・ 参加費: 5,000円、学生1,000円
	食品リスク研究部会	<p>1. ILSI Europe 支援対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食品分野の動物実験代替推進を目的として ILSI-Europe より本邦の動物実験が関与する関係法規の調査、纏め及び発表についての要請があり、WG2 が協力することとした。本件につき国衛研小島先生にご支援いただけることとなった。 <p>2. ワーキンググループ活動 (10/24 開催)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「食品リスク評価新技術勉強会 (WG2)」: ①ILSI-Europe 協力対応、②講演会・講習会開催、③勉強会 (In vitro 毒性評価手法の開発状況調査及び代替法の食品分野への応用検討)、をテーマとすることとした。 ・ 「食品リスク評価課題解決 (WG3)」: ①高齢者対象とした食品の安全性評価の考え方、方法論の整備、発信、②GEMS FOOD データベースの日本食品掲載に向けた活動、をテーマとすることとした。 <p>3. 勉強会開催予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 演題: 新たな時代に対応した食品リスク評価技術の検討 ・ 演者: 内閣府食品安全委員会事務局 評価技術企画推進室長 橘薫子先生 ・ 日時: 2017年11月30日 15:00~ ・ 場所: ILSI Japan
	香料研究部会	

バイオテクノロジー研究会	<p>1. 2017年度 第5回目会議を10月26日に開催</p> <p>(1) ERAプロジェクト調査報告 第35号の勉強会。 ・10報の論文をレビューし、意見交換を行った。</p> <p>(2) COMPARE (既知アレルゲンデータベース) について。 ・ILSI HESI よりデータベース紹介用のプレゼン資料を入手し、9月上旬に食品安全委員のGM食品リスク評価担当者に説明を行った。Allergen online との違い等についての質問を受けたが、今後のリスク評価に本データベースを用いることについて了承が得られた。今後 ILSI HESI の了承を得て ILSI Japan のHP で本データベースを広く紹介することとした。</p> <p>(3) GM微生物食品について ・高度精製食品として初めて L-Cit の安全性審査が終了した旨が報告された。</p> <p>(4) GM作物について ・Data transportability についての論文を11月中旬に投稿予定。今後、英訳を作成し、育種学会の了承が得られたら英訳を ILSI のHP に掲載する予定。 ・来年予定されている ERA に関する勉強会及びワークショップの準備状況が報告された。 ・ISBGMO の報告については、年内に報告会を開催することが時間的に困難であるため、「イルシー」誌にて報告することで合意した。 ・7月に開催したゲノム編集ワークショップの報告書は最終化され、「イルシー」誌に掲載予定。アンケート結果についてはHPにのみ掲載する。</p> <p>(5) 次世代シーケンスのリスク評価への活用に関する勉強会について ・食品安全委員会及び化学物質評価研究機構から講師を招聘し、12月に開催することとなった。</p> <p>(6) 2018年の活動計画について ・ERA勉強会等、6つのプロジェクトについて合意された。</p> <p>2. ERAプロジェクト調査報告の発行 ・第34号を10月発行。 ・送付リストの見直しが終了し、次号より使用予定。 ・No.151-300の集約版の準備に遅れが出ているため、35号と一緒に12月に発行することとした。</p>
栄養健康研究会	<p>2017年度 第4回 部会を開催し(9月27日)、以下について情報共有した。</p> <p>1. 『第9回ライフサイエンスシンポジウム(テーマ:栄養と運動)』について ・テーマ:「健康長寿の延伸につなげる栄養科学と運動科学の融合 — 基礎研究から応用研究まで —」。 ・開催日: 2018年7月26日(木)(終日) ・場所: 東京大学弥生講堂一条ホール(最大:300名)。 ・プログラム案(講演依頼をご快諾ください先生方について)</p> <p>2. 2018年 ILSI Japan 研究会・研究部会 研究活動書・予算申請書について ・活動の名称、成果、活動計画(上記1のシンポジウムの参加費、支出、収支等)について意見交換。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・後日、活動計画書・予算申請書を ILSI Japan 事務局に提出 (10月2日)。 <p>3. 今後の課題について 上記1のシンポジウムのプロモーション活動の立案と実施。</p>
	GRプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回多施設試験再追試の結果解析。
	茶類研究部会・茶情報分科会	特になし
食品機能性研究会		
	寄付講座 「機能性食品ゲノミクス」	<ul style="list-style-type: none"> ・第Ⅲ期寄付講座 (2013年12月開始、5年間) 研究進行中。
健康な食事研究会	ワーキンググループ1 (WG1) 科学的エビデンスに基づく日本人にとっての健康な食事の概念構築	<p>第2回会合 (10/10) 開催 (15名)</p> <p>○ 取組むテーマについて再度議論 栄養疫学の基本の習得を目指す (当面の課題)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事摂取基準 (2015版) 掲載の資料不備な栄養素に着目し、「どの点が不備か」を引用された論文を教材に学ぶ。 ・佐々木先生提示テーマについて、具体的にシステマティック・レビュー (SR) を行ない、論文の質の評価を学ぶ。 <p>○ WGの新たな方向性について事務局から説明</p>
	ワーキンググループ2 (WG2) 外食・中食・給食の実態把握	<p>外食・中食・給食業界インタビューの事前情報収集のため、研究会内関係者からヒアリングを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 給食産業界：大手給食企業 総合研究所 課長様 9/20 ■ 外食産業界：大手外食企業 ホールディングカンパニー 会長様、経営企画部長様、レストランチェーン社長様 10/6 ■ 中食産業界：大手 CVS 執行役員様 10/27
	ワーキンググループ3 (WG3) 健康な食事の伝え方開発と社会実装による効果検証	WG2のヒアリング (上記) 傍聴 桑田先生、園木
	研究会全体	<ul style="list-style-type: none"> * 研究会方向性等確認 宮澤会長 (9/13) : 研究会活動と科研費申請など打合せ 佐々木 WG1 リーダー (9/4、10/10、10/19) : 「健康な食事」の概念、活動の新たな方向性など打合せ * 行政との意見交換 消費者庁芳賀課長補佐 (厚労省検討会担当) (9/28) 厚労省福田健康局長 (10/25) * 研究費調達について 日本財団助成金申請完了 * 今後の予定 <ul style="list-style-type: none"> ・第3回研究会 (11/6) ・WG活動の継続 ・研究費調達検討の継続
C H P	Project PAN (Physical Activity and Nutrition)	<p>◇ テイクテン (TAKE10!®)</p> <p>9/2 明和短期大学主催, 味の素株式会社後援, 上毛新聞・ILSI Japan 協力「第2回ロコモ予防サークルセミナー」(明和短期大学, 前橋市)</p> <p>9/7, 21 すみだテイクテン教室 (墨田総合体育館)</p> <p>9/12, 26 すみだテイクテン教室 (スポーツプラザ梅若)</p> <p>9/13, 20 すみだテイクテン教室 (すみだ女性センター)</p> <p>9/15 自主サークルなでしこテイクテン (中ノ郷信用組合立花支店, 墨田区)</p> <p>10/4, 18 すみだテイクテン教室 (すみだ女性センター)</p>

	<p>10/10, 24 すみだテイクテン教室 (スポーツプラザ梅若)</p> <p>10/12, 19 すみだテイクテン教室 (墨田総合体育館)</p> <p>10/6 ベイシアロコモセミナー (一般生活者 50 名参加, ベイシア文化ホール, 前橋市)</p>
Project SWAN (Safe Water and Nutrition)	<p>◇ SWAN ベトナム</p> <p>10/9, 30 ILSI より各省へ紙芝居式教材の供与(栄養・食品衛生 400 部及び安全な水・衛生環境 400 部、ニンビン省、ハナム省)</p> <p>10/16, 19, 24 地域ヘルスワーカーを対象とした紙芝居式教材を用いたコミュニケーション能力向上研修(省・区サポートチーム主催、参加者 83 名、ハナム省)</p> <p>10/17, 20, 25 地域ヘルスワーカーを対象とした料理教室開催に関する研修(省・区サポートチーム主催、参加者 83 名、ハナム省)</p> <p>10/18, 23, 26 地域ヘルスワーカーを対象とした栄養・食品衛生及び安全な水・衛生環境に関する研修(省・区サポートチーム主催、参加者 83 名、ハナム省)</p>
Project IDEA (Iron Deficiency Elimination Action)	<p>9/11~16 NJPPP (栄養改善推進事業プラットフォーム：詳細はホームページ参照：http://njppp.jp/project) の運営委員会に ILSI スタッフが参加, カンボジアにおける栄養強化米導入に関し検討(2名参加, プノンペン、カンボジア)</p>
CHP 全体	特になし
国際協力委員会	<p>BeSeTo 会議 (8 月 31 日午後~9 月 1 日)</p> <p>8 月 31 日の午後につき 9 月 1 日は終日 BeSeTo 会議を実施。会議には日本の他 ILSI の各アジア支部からの参加者総勢 50 名超があり、各演者による情報共有および活発な意見交換が行われた。</p> <p>9 月 1 日の会議での日本からの演題および演者は以下の通り(発表順)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食品微生物研究部会の戦略と活動 佐藤 惇氏 (ILSI Japan 食品微生物研究部会、花王(株)) ・食品の安全性保証に関する現在の懸念 中江 大氏 (ILSI Japan 理事、東京農業大学) ・日本における HACCP 導入義務化検討 福島 和子氏 (厚生労働省) ・日本における食品のヘルスクレーム規制に関するアップデート： 特定保健用食品 (FOSHU) 及び機能性表示食品 菅谷 博之氏 (花王(株)) <p>続いて ILSI 東南アジア支部の Ms. Pauline Chan による支部間協力プロジェクトの進捗報告と今後の活動計画に関して全員で議論した。</p> <p>最後に BeSeTo 会議の今後の方向性に関し当委員会委員長よりいくつか方向性案を提示し全員で議論を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の BeSeTo 会議の方向性に関する提案 高橋 智子 (ILSI Japan 国際協力委員会) <p>概要については「イルシー」誌で報告予定。</p> <p>部会開催：9 月 15 日(水)</p> <p>8/31, 9/1 に行われた BeSeTo 会議の振り返りを行った。</p> <p>各出席者から感想をもらったほか、会議での議論を踏まえて今後の BeSeTo 会議の在り方に関する日本としての見解を改めて検討し</p>

	た。会議開催までのタイムラインとともに、以下の事項を日本から改めて会議参加支部に対して提案することに。 年初に各支部の活動内容を参加支部間で共有し、次回の BeSeTo 会議で共有する課題案を各参加支部から募る。
情報委員会	1. 委員会開催 2 回 (9, 10 月) 2. ホームページ ・ 日常業務としての更新 (随時) 3. 「栄養学レビュー」誌 ・ 26 巻 1 号 (通巻 98 号) : 編集 (11/10 刊行予定) ・ 26 巻 2 号 (通巻 99 号) : 翻訳、監修 (2/10 刊行予定)
編集部会	・ 「イルシー」誌 132 号原稿査読・編集

【講演会・シンポジウムご案内】

講演会名	案内	担当研究部会

【事務局からのお知らせ】

理事会	<p>第 4 回理事会を平成 29 年 10 月 27 日 (金) に開催。 決議事項 新監事就任の件 小路監事の後任監事として森永製菓株式会社の守田稔氏を承認。</p> <p>報告・討議事項 ＜研究会活動の活性化＞ 1. 健康な食事研究会進捗報告 WG1 の佐々木先生から「今ある論文では、健康な食事の概念をまとめることは難しい。食事摂取基準をひとつの目安として、BDHQ で人をグループ分けし、食事を写真でアプリに入力してデータを集め、それで食事の助言をし、集めたデータを解析して食事摂取基準を改善したい。」との提案をいただき、この方向で、時間軸を決め 11/6 の全体会議で方向付けを行う予定。</p> <p>2. 発展型寄付講座創設の報告 AI の技術者、専門家と議論しつつ、新寄付講座の可能性の検討を継続中。理研、産総研との議論も進み、また、弘前のデータのクレンジングも進んできて、年内には見極めができる状況。 また、新寄付講座のひとつの方向として、動物試験代替がありうる。ILSI EU で動物試験代替の TF が 2016 年の後半に立ち上がり活動開始。この TF の活動にリスク研究部会が参画することになった。講座開設先としての弘前 COI の選択への疑問点、注意点、動物試験代替の EU の動きに関する助言等が出された。</p> <p>3. 研究会・研究部会への活動支援一予算枠と審査委員会の承認 申請書に基づき、審査委員会にて 11/20 審議予定。予算枠は、一研究会・部会で 30 万円×5 部会=総額 150 万円で、対象は「食品微生物部会」、「食品リスク研究部会」、「栄養研究部会」、「茶情報分科</p>
-----	---

	<p>会」、「バイオテクノロジー研究会」の5部会、審査員案を提案し、承認された。</p> <p>4. 栄養とエイジング国際会議：企画概要案・企画委員会案 総合テーマは、「食事と運動による健康寿命の延伸（仮）」とし、2部構成にて行う。日程は、2019年9月末の2日間、東大農学部の弥生講堂にて開催。企画委員長は宮澤理事に依頼し、他の企画委員は、今後打診。アジア栄養学会議が同じ時期に開催されるので、日程が重複しないようにとの助言があった。</p> <p><2017年決算見込、2018年予算一次案> 当年の収支見込を計算したところ、ILSI Japanの損益は黒字だが、CHPの損益は赤字の予定。来年の収支を計算するとILSI JapanもCHPも共に赤字の予定。CHPの赤字は、近年の会費の減少が根源的な要因。次回理事会までに改善策を出すことにした。</p> <p><連絡事項></p> <p>1. 2018年理事会日程</p> <p>2. 本部総会の日程・開催場所 2018年1/19～24日、場所はバミューダ。各支部からの科学セッションがあり、そのセッションで日本からは食品微生物部会が成果を発表する。</p>
事務局	特になし。